

# からだのとしよかん通信

— 資料の紹介特集 —

2009年9月号



## 「医療の数字」の落とし穴

データと賢く付き合う

薬の有効性と  
治療の評価

雑誌『暮らしと健康』2009年10月号から「薬の有効性と治療の評価を測るものさし」についてご紹介します。

(9月号では医学・医療の情報は私たちが期待するほど確固としていないこと、このことを前提に健康・医療情報をなるべく正しく読み取るポイントや検査結果の見方が紹介されています。)

### ●「抗がん剤の奏効率が0%」とは、どういう意味でしょう。

これは、がんが治る可能性が0%という意味ではありません。奏効率とは、がんが消失または一定割合以上に縮小することを指し、完全奏効と部分奏効があります。(新ガイドライン参照) 奏効率はがんが治療前に比べて消失するか、大きさが30%以上縮小した人が全体の何%を占めているかで表されます。「抗がん剤の奏効率が20%」といった場合、がんが30%以上縮小した(例えば、CT画像などで元の大きさが10cmあったものが7cm以下に小さくなった)人が、10人中2人いたことを意味します。

しかし、数字だけではどんな効果があるのか、分かりにくいですね。先生から「効果が期待できる治療法がある」と言われた場合、具体的に説明してもらえると分かりやすくなるかもしれません。例えば、「症状が緩和されて少し楽になる」「外出も可能になる」などです。これなら治療の意義や目標も見えてきますね。

### 固形がん\*1の治療効果判定のための新ガイドライン

条件	がん病変が診察や検査画像などで少なくとも一次元で正確に測定(一番長い径を測定)でき、ある一定のサイズ(診察で20mm以上、ヘリカルCT*2で10mm以上)を満たすこと
効 判 基  果 定 準	完全奏効* CR: complete response すべての標的病変の消失
	部分奏効* PR: partial response 治療前と比べ標的病変が30%以上縮小
	進行 PD: progressive disease 治療開始以降に標的が20%以上増加
	安定 SD: stable disease PRもPDにも該当しない、その間の状態

\* 完全奏効ならびに部分奏効の判定は、4週以降の再評価により確定

\*1 固形がん：白血病や悪性リンパ腫などの血液のがんに対し、乳がん、消化器がん、肺がんなどの、腫瘤(しこり)をつくるがんを固形がんと呼びます。

\*2 ヘリカルCT: CT(コンピュータ断層撮影)の撮影方法の1つ。3次元の画像





## 病院の言葉をわかりやすく 工夫の提案●

日常病院で使われている病名や病状を示す言葉には、言葉そのものが難しすぎ、医師の病状の説明も難しいことから、本書は、もっと分かりやすい言葉で、解説されたものです。  
(日野原重明先生)

分かりやすくする工夫を5類型に分け、57語を例に詳しく解説されています。  
 日常言吾で→→→浸潤→→→がんがまわりに広がっていくこと  
 正しい意味を→→→頓服→→→症状が出たときに薬を飲むこと  
 踏み込んで→→→副作用→→→薬による望んでいない作用  
 混同を避けて→→→ショック→→→血圧が下がり生命の危険がある状態  
 普及を図る→→→QOL→→→→その人がこれでいいと思えるような生活の質

図入りで言葉の説明もあります。 浸潤とは→

## 室内の植物



3時になると、かわいい花が咲きます

